

拍手しすぎる日本人

行列してまで

食べない

フランス人

舞踊研究家

芳賀直子



常州大学图书馆
藏书章

拍手しすぎる日本人
行列してまで食べないフランス人

芳賀直子

舞踊研究家。東京都生まれ。明治大学大学院文学部文学科演劇学専攻博士課程前期修了(文学修士)。専門は「バレエ・リュス」「バレエ・スエドワ」。研究者として国内外の舞台を多数鑑賞、評論やコンクール審査員としても活躍。各種媒体への執筆活動とともに、そのエレガントな語り口による講演の人氣も高い。兵庫県立芸術文化センター所蔵「薄井憲二バレエ・コレクション」キュレーターとして展覧会企画、監修も手がけている。

著書には「ICON 伝説のバレエ・ダンサー、ニジンスキー妖像」(講談社)、「バレエ・リュス その魅力のすべて」(国書刊行会)などがある。

講談社  新書 579-1 C



はくしゆ に ほんじん ぎょうれつ た じん
拍手しすぎる日本人 行列してまで食べないフランス人

は が なお こ
芳賀直子 ©Naoko Haga 2011

2011年12月20日第1刷発行

発行者——— 鈴木 哲

発行所——— 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部(03)5395-3532

販売部(03)5395-5817

業務部(03)5395-3615

装画——— ジョルジュ・バルビエ

デザイン——— 鈴木成一デザイン室

カバー印刷——— 共同印刷株式会社

印刷——— 豊国印刷株式会社

製本——— 株式会社若林製本工場

本文データ制作——— 講談社デジタル製作部

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第三出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

Printed in Japan

ISBN978-4-06-272742-6

目次

はじめに 3

第一章 不思議だらけの日本公演

『白鳥の湖』で送られる拍手	12
甘く見られた日本の観客	16
夏の来日公演は“出稼ぎ”?	20
スタンディング・オベーション	21
やらせの多い「ブラボー!」	26
本末転倒の舞台挨拶	28
日本だけで受ける『ジゼル』の場面	32
ブライニングと途中退席	34
拍手は個人のバロメーター	37

第二章 芸術貧民の日本人

感動にもランクがある！ 40

「She is excellent,

but not brilliant」 41

初対面の人との激論も楽しい 43

青山で見た不思議なカップル 46

自分を主張するフランス人 48

コミュニケーション下手な日本人 52

「最後の公演」の真実 55

意見の対立を嫌う日本人 57

批判記事を書かせないメディア 62

「ファン」と「好きになる」は違う 64

視聴率稼ぎのアイドルの応援 68

第三章 「感動をありがとう」は恥ずかしい

「今のお気持ちを聞かせて下さい」 72

小泉純一郎の罪な一言 76

拍手するあなたは嘘つきかも!? 79

古今亭志ん朝と立川談志 81

映画『ブラック・スワン』の裏側 85

本当の「感動」の姿とは？ 90

感動は、ふいに訪れる 94

「追体験型感動」の落とし穴 96

3大テノールのわかりやすさ 97

観客の「ブランド」重視傾向 99

行列のできる美術展の疑問 101

行列してまで食べないフランス人 104

他人には無関心な日本人 109

賢い絵画鑑賞法 113

高橋由一の『鮭』の不思議 117

フェルメール人気の理由 119

第四章 バレエがもたらした「本物の感動」

なぜ親はバレエを習わせるのか? 122

バレエ・ダンサーだったルイ14世 124

歴史を変えた「バレエ・リュス」 128

ファッションの最先端に! 131

シャネルが衣裳担当の贅沢さ 133

モーリス・ベジャール登場! 135

ジオルジュ・ドンの野性美 136

熊川哲也の超絶技巧 139

吉田都の安定感 142

本当に感動できる舞台の見方 143

舞台で転んだダンサー 145

チケツト代が高すぎる日本 147

バレエは歌舞伎ではない! 149

「バレエ・リュス」同窓会 151

第五章 大人になりたくない日本人

江戸の民衆のほうが鑑賞上手 156

美術館無料開放デー 158

小学生のピカソ教育 159

意見がないのは、いないのと同じ 163

ベルギーから帰国して驚いたこと 166

人と比べなければ幸せになれる！ 167

大人になりたいと思わせる社会 170

未成熟が好きな日本人 173

「キティちゃん」マニア 175

大人になりたくない日本人 176

ネット、ブログ、ツイッター 178

「おひとりさま」も、またよし 181

地域バレエ団に希望！ 183

おわりに 188

拍手しすぎる日本人
行列してまで食べないフランス人

はじめに

「日本での公演は好き」と公言する海外のバレエ・ダンサーはあとをたちません。日本人としては悪い気はしない話です。

その理由は「観客が温かい」からと答えています。しかし、この「温かさ」とは何でしょうか。ダンサーへの愛情でしょうか。実はこの「温かさ」には、調子の悪い公演、出来の悪い公演でも、日本の客は「温かい」拍手を送ってくれるという意味も含まれているのではないのでしょうか。

もちろん、実際に熱烈な拍手を送りたくなるような素晴らしい、「見てよかった、幸せ!」「最高!」と思える舞台に出会うこともあります。しかし、とりわけ夏の公演ではそうとはいえない舞台が多いのも事実です。

しのぎやすい気候のヨーロッパなどから、蒸し暑い日本に来ての夏の公演は、移動距離の長さや時差に加えて、体力的な負担を強いられ、明らかに夏バテしたと思しきダンサーがい

ます。この時期は、彼らが所属しているパリやロンドン、モスクワなどのヨーロッパ諸国のバレエ団の夏休み期間にあたり、日本での公演は、綺麗な方ではありませんが、いわば「出稼ぎ公演」という側面もあるのです。

だからダンサーたちのテンションも完璧というわけにはいかず、最高の舞台に出会えるという確率が、どうしても高くないのです。

最近はそのほど見かけなくなりましたが、今以上に夏の公演が多かった1990年代には、「ポワント」（つま先立ち）で踊るはずのところを「ドウミ・ポワント」（つま先ではなくて足の指の付け根あたりから立つ）で踊ったり、回転数を減らして体力を温存しているダンサーもいました。「ドウミ・ポワント」は、普通の人が見ても明らかにわかるのですが、それでもダンサーは堂々と舞台でやってのけたのです。

しかし日本人の観客は、どれほど舞台の出来が悪くてもブーイングをしたり、足を鳴らしたりすることは、まずありません。それどころか驚くようなレベルの低い公演にも盛大な拍手を送るのです。そして席を立てて手を叩くスタンディング・オベーションをし、中には「ブラボー！」とダンサーを称賛する客の姿もこの頃はよく見ます。

これでもいいのでしょうか——？

バレエを中心にダンス全般、ミュージカル、そしてオペラにオーケストラ、能や歌舞伎など、舞踊研究家としてこれまでに、世界各地で数千回もの舞台公演を見てきましたが、今のようになれるがよかろうと悪かろうと、すべての公演に惜しめない拍手を送る日本の観客を見ると、日本人には芸術鑑賞眼が育たない、日本では舞台芸術が成熟しないのではという危惧^{きぐ}をどうしても感じてしまいます。

けれど日本には古くから、能や歌舞伎、落語などで「客が芸人を育てる」という文化があったはずです。芸術を見る目はたしかだったはずなのです。

なによりいいと思うものはいいい、よくないと思うものはよくないと自分の考えをきちんと伝えられないと、日本人は「不思議の国」ニッポンのまま、世界で軽んじられてしまうのではないのでしょうか。私の専門分野である舞台芸術を通して、考えられる日本人、主張できる日本人、自立した日本人になるにはどうしたらいいかを考えていきたいと思います。

目次

はじめに 3

第一章 不思議だらけの日本公演

『白鳥の湖』で送られる拍手	12
甘く見られた日本の観客	16
夏の来日公演は“出稼ぎ”?	20
スタンディング・オベーション	21
やらせの多い「ブラボー!」	26
本末転倒の舞台挨拶	28
日本だけで受ける『ジゼル』の場面	32
ブーイングと途中退席	34
拍手は個人のバロメーター	37

第二章 芸術貧民の日本人

感動にもランクがある！ 40

「She is excellent,

but not brilliant」 41

初対面の人との激論も楽しい 43

青山で見た不思議なカップル 46

自分を主張するフランス人 48

コミュニケーション下手な日本人 52

「最後の〳公演」の真実 55

意見の対立を嫌う日本人 57

批判記事を書かせないメディア 62

「ファン」と「好きになる」は違う 64

視聴率稼ぎのアイドルの応援 68

第三章 「感動をありがとう」は恥ずかしい

「今のお気持ちを聞かせて下さい」 72

小泉純一郎の罪な一言 76

拍手するあなたは嘘つきかも!? 79

古今亭志ん朝と立川談志 81

映画『ブラック・スワン』の裏側 85

本当の「感動」の姿とは? 90

感動は、ふいに訪れる 94

「追体験型感動」の落とし穴 96

3大テノールのわかりやすさ 97

観客の「ブランド」重視傾向 99

行列のできる美術展の疑問 101

行列してまで食べないフランス人 104

他人には無関心な日本人 109

賢い絵画鑑賞法 113

高橋由一の『鮭』の不思議 117

フェルメール人気の理由 119

第四章 バレエがもたらした「本物の感動」

なぜ親はバレエを習わせるのか? 122

バレエ・ダンサーだったルイ14世 124

歴史を変えた「バレエ・リュス」 128

ファッションの最先端に! 131

シャネルが衣裳担当の贅沢さ 133

モーリス・ベジャール登場! 135

ジオルジュ・ドンの野性美 136

熊川哲也の超絶技巧 139

吉田都の安定感 142

本当に感動できる舞台の見方 143

舞台で転んだダンサー 145

チケツト代が高すぎる日本 147

バレエは歌舞伎ではない! 149

「バレエ・リュス」同窓会 151

第五章 大人になりたくない日本人

江戸の民衆のほうが鑑賞上手 156

美術館無料開放デー 158

小学生のピカソ教育 159

意見がないのは、いないのと同じ 163

ベルギーから帰国して驚いたこと 166

人と比べなければ幸せになれる！ 167

大人になりたいと思わせる社会 170

未成熟が好きな日本人 173

「キティちゃん」マニア 175

大人になりたくない日本人 176

ネット、ブログ、ツイッター 178

「おひとりさま」も、またよし 181

地域バレエ団に希望！ 183

おわりに 188

